

いま伝えたい

被爆者から

2015年・被爆70年
NPT再検討会議へ

8歳になったばかりで

私は国民学校1年生の時、8歳の誕生日を迎えた4日後、長崎の道ノ尾(爆心地から3.5キロ)であの日を迎えました。夏休みだったので、金だらいに水を入れて遊んでいた時に、突然ピカッと光ってドーンとすごい音がしました。家の人に「防空壕に入りなさい」と言われ、家の裏手に行くために家の中に入った。座敷のガラスがみな割れて、たたみの上に散乱していました。子ども心に怖かったです。その日は一日中防空壕に入っていました。うめき声が聞こえていたのを覚えています。

家の前が自転車屋さんで、その向こうに浦上川

〈9〉 私だけが生きて良いのか…と

滋賀・草津市 大村信代さん(77)



のことを思うと、たくさんの人の犠牲の上に私だけ生きていて良いのかと思い、私にできることはしなければと思っています。何か一つでもみなさんの役に立てればとやっています。

戦争、原発は
絶対だめ

増えてきました。

たくさんの犠牲の上に

が流れていましたが、その川をたくさん亡くなった人が流れてきていました。大人たちは亡くなった人たちをリヤカーで運んで燃やしました。帰ってきた大人たちがみんな臭かったです。そのにおいは今でも忘れない。母が夜、着ていた服を泣きながら洗っていました。

娘の頃、被爆者は「嫁にももうな」と言われていました。子どもに影響が出るのではないかと心配していました。子どもは3人いますが幸いみんな元気です。私自身は30歳位から血圧が高いですが、元気にしています。

けがをした友だちのお見舞いに行った時、傷口にうじがわいていたのをお母さんが竹のはしでとっていました。親が亡くなった子どもたちは孤児院に収容されていました。お寺の床下などで暮らしていました。アニメ映画『火垂るの墓』の光景はザラにありました。

今は、こびらい生協診療所(栗東市)で朝市(月曜日の朝、近くの農家の人たちが作った新鮮な野菜を売っている)やデイサービスで食事作りをするなどのボランティアをしています。また、障がいのある友だちの買い物や役所の手続きの手助け、高齢者や外国人のための地域サロンで食事会や健康チェックの活動もしています。百歳体操もみんなと一緒にやっています。

早く亡くなった友だち

市電に乗ると、ケロイドのある人や包帯をまいた人ばかりで無傷の人は

早く亡くなった友だち

です。

5年と経つと無傷の人が

声の大に言いたい

ことは「戦争は絶対だめ」「原発は絶対だめ」